

2026年3月6日

小野敏彦の担当パート

タイトル：偶然が導いた記録と記憶—南米訪問から『海の向こうに見た夢』刊行まで  
いとこ会有志によるチリ訪問、資料収集から書籍づくりを項目別・時系列に整理しました。

	時期	活動内容	偶然性	成果
① 南米旅行	2023年 12月	いとこ会有志(小野卓・諒、西脇文子、小野敏彦)でチリの親戚訪問と小野貞吉・太兵衛の足跡を辿る 12/1 出発、12/22 帰国		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ペルー(12/2 - 12/7) ペルー三井物産の五十嵐正樹氏へ感謝の意を表する目的なるも、同氏多忙のため果たせず リマ市内とマチュピチュを観光</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>チリ (12/7 - 12/14) キヨタ市郊外にある墓地に眠る太兵衛・マティルデ夫妻及びその子らの墓参り 夫妻の二男(95歳)と三女(92歳)の自宅他を訪問 50人余りの親戚が集合し歓迎を受ける 若手の親戚からサンティアゴ市内の案内を受ける、さらにサンティアゴから南下しワイナリーを訪問</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>アルゼンチン(12/14 - 12/20) 在亜日本人会を訪問し、鹿児島にルーツをもつ日系2世の関口ルシア氏と面会 貞吉情報を鹿児島県人会に照会するも情報得られず チリの遠縁の親戚と遭遇し、後日情報収集の広告を地元邦字紙に掲載</li> </ul>	<p>★★★★</p> <p>★★★</p>	ラ・プラタ報知に投稿
② 資料収集・確認活動	2023年 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>JICA 横浜海外移住資料館の南米移民に関する蔵書で小野太兵衛の情報を検索</li> <li>外務省外交史料館で小野太兵衛への旅券発給記録を検索、太兵衛の叔父貞吉の記録も含めて確認</li> </ul>	<p>★★</p> <p>★★</p>	Al Otro Lado del Pacifico アルゼンチン同胞八十年史
	2024年 7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>1916年に南米東岸航路を運航していた(株)商船三井に小野貞吉・太兵衛の乗船記録を問合せ</li> <li>同社社史資料室から記録はないが旅券取得のタイミングから1916年12月に横浜を出航した笠戸丸を特定</li> </ul>	★	1916年配船表 笠戸丸船体写真
	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜開港記念館所蔵の英字紙を照会し笠戸丸の横浜出航日の裏付け確認</li> <li>外交史料館からは、該当時期の移民船乗船名簿は見当たらずとの回答</li> </ul>		Japan Gazette

	2025年 1月-5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>外交史料館の渡航者・帰国者・死亡者名簿等を調査するも小野貞吉の情報見当たらず</li> </ul>		
	2月-7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>JICA 横浜海外移住資料館図書閲覧室にて立命館大学大学院在籍のチリ人研究者に出会い、日系人史研究者・飯富佳祐氏を紹介される</li> </ul>	★★★	太兵衛の雇用主チリ海軍シン普森退役提督を特定
③ 書籍づくり	2025年 1月-2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>書籍制作のため笠戸丸プロジェクトをキックオフ</li> <li>古谷ゆう子氏をライターとして起用、後日妹の坂本晴子氏も校閲者として参画</li> </ul>	★★	
	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>林聖子氏に続き、後日ご主人の慎一郎氏が装幀家として参画</li> <li>駐日チリ大使館に本プロジェクトの内容を伝達し、協力を依頼</li> <li>古谷氏がストーリー展開に必要な以下5人を各々インタビュー 親戚探しの恩人五十嵐正樹氏、日系人ビザ取得時の支援者山田マックス氏、ミノルの身元引受人の黒田好子氏、ミノルの両親のアルベルトとカルメン</li> <li>チリからミノルの親戚カロリーナがワーキングホリディで来日(イラストレータ)</li> </ul>	★★    ★	
	4月-5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>校閲者として西語訳の高崎智氏、純セゲール見坊氏、英訳の湯浅ジョイ氏が参画</li> <li>第1章「幸運な巡り合わせ」(ミノルが卓と出会うまで)の原稿校閲完了。西語訳と英訳開始</li> <li>タイトルを「海の向こうに見た夢」に決定</li> </ul>	★★★	
	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>出版にあたり(株)商船三井から「笠戸丸」の名称と写真の使用許可取得</li> <li>右記の書籍を参考資料として用い、舞城到着日を1917年3月初と推定</li> <li>第3章「ジャカランダの花は咲き続ける」(いとこ会有志のチリ訪問と親戚間の交流再開)の校閲完了、西語訳・英訳開始</li> </ul>		笠戸丸から見た日本
	7月-8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2章「太兵衛の眼差し」(太兵衛の移民前およびチリ転住後の記憶)の校閲完了</li> <li>表紙カバーのデザイン・帯の文言確定</li> <li>原稿校了し、装幀家から印刷所に入稿</li> </ul>		
	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外日系人大会に間に合わせるべく1,000部を刊行</li> </ul>		

以上